

ISSN 0911-310X

龍谷大学

# 佛教学研究室年報

第3号

昭和62年3月

---

---

## 目次

巻頭言	井ノ口 泰淳	1
弘法大師空海の仏身観 —とくに『辯頭密二教論』を中心に—	今井 浄園	2
西山義における「孝養父母」の解釈	伊藤 正順	6
雑誌論文分類目録IV 訂正とお詫び		8
会員名簿		9
院生会員研究発表題目		10
院生会員発表論文		11
あるとおもって探せ	山崎 慶輝	12
健駄邏国	入澤 崇	15
レンダーワの『四百論註』シノブシス	三谷 真澄	23
瑜伽行派における『雑阿含』703経の解釈をめぐって	藤田 祥道	29
『勝義空経』について	青原 令知	40

---

---

本「年報」第2号の巻頭言にも述べたように、本書は龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻に在籍する学生諸君の研究発表の場として企画され、刊行されているものである。編集から刊行に至るまでのすべての事務処理や経費の支弁は所属学生諸君の自主的な協力によって運ばれており、先づ、その責任の衝にあたった人々の労を多としたい。

本「年報」は以下見られる通り、博士後期課程の学生諸君の研究成果を集録したものである。いづれも完成した成果の一部というよりは、将来さらに大きく結実するであろう目標への道程を示すもので、本書に寄せられる批判は論文執筆者達へのいましめとはげましになる事と思ひ、読者諸賢の御高判をお願いする。

第2号、第3号と継続されてはいるものの年一回の刊行であるので、論文寄稿者の顔振れがより多彩となり、したがって、取り扱われるテーマもより多様となることを敢えて要望する。

大学院学生の研究発表の場は本「年報」に限られるのではなく、この他、主として修士論文を掲載する「龍谷大学大学院研究紀要」や、われわれの共同の発表場所である「仏教学研究」もある。また各種の学会誌も広く開放されており、私の過去を顧みて、全く隔世の感がある。口頭発表に伴う極く僅かの紙幅しか与えられない、いわゆる全国学会誌のみならず、かなり長文の研究成果を受け入れてくれる専門誌も少くない現状である。本「年報」を土台として広く学外へ、他の専門誌へとその発表の機会を求めて、飛躍されるよう希望している。学生諸君がより意欲的に研究活動を活発化されこそ、本「年報」の刊行の意味があると思う。いささか巻頭言としてはふさわしからぬ文辞を連ねたが、意のあるところを諒されんことを切望する。

仏教学関係 雑誌論文分類目録Ⅳ  
訂正とお詫び

ページ数	論文番号	
241	32454	菩薩の哲学 → 菩薩道の哲学
314	33637	梁朝伝 → 梁朝傳
412	41394	窺規 → 窺基
564	51149	東洋学論叢 330 → 東洋学論叢 <u>33</u>
756	54569	撰択 → 選択
782	55029	分類ミス 第12章へ
870	56628	分類ミス 第11章へ
858	56416	龍谷教学9 → 龍谷教学 <u>16</u>
901	57190	「精神本懐集」 → 「諸神本懐集」
1260	71178	清沢満元 → 清沢満之

索引篇

ページ数		
137	20行目	廃立 → 削除
249	春日井真也	30940 → 30939
355	広川堯敏	33565 追加

以上、訂正し、お詫び申し上げます。この『雑誌論文分類目録Ⅳ』の訂正は順次、『年報』に掲載していくつもりです。



## 会 員 名 簿

大学院博士課程 1 池上後吉回青今浄白藤三回加 2 藤田生原井福井田谷生藤 3 池上後吉回青今浄白藤三回加	要子夫一 知圓伸之道澄 利生 美康健 令浄雅博祥真 利生	4 大1 間西若回伊金竹東毛学回相五井梅 中 原生藤児中光利院生川十上高 潤 純昭 順慧文英英課 秀幸正正 芳雄 正 尚爾俊士 隆英賢	2 大1 大坂佐野田根段尾 井新竹筒南濱藤 谷原野田根段尾 井新竹筒南濱藤 大坂佐野田根段尾 井新竹筒南濱藤	雄見功樹次生順 宏周彦明見子晃 徹英 香孝瑞幸 秦仙俊保松君	3 4 藤宮山回木浄土中三藪笹回貞中 原内名生村念山野上 川生包臣	弘樹徳 雄敬之薰潮明恒 文範 正一 一清雅 浩行 雅秀
--	---------------------------------	---	---	-----------------------------------	---	--------------------------------

### 編 集 委 員

蘭田香樹 (M1) 後藤康夫 (D1) 池 要 (D1)  
 間中 潤 (D3) 南部松見 (M2)  
 若原雄昭 (D3) 佐野 功 (M1)

### 編 集 後 記

仏教学研究室年報第3号をお届けします。御覧のように本号よりワープロ印刷とさせていただきます。印刷の文字、書式等、必ずしも統一されておりません。従って、お見苦しい点はあるかと思いますが、内容面に關してはより充実した論文が掲載されたと信じております。

また、本年3月をもって退職される山崎慶輝先生、そして井ノ口泰淳先生には御多忙中にもかかわらず、原稿をお寄せ頂きました。そして、兼任講師の入澤崇先生からも特別に原稿をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。

さて本号は例年に較べて投稿者の数が少なく、非常に残念に思われます。本『年報』がより充実したものとなるためにも、数多くの論文が寄せられることを期待し、また編集委員としても、より多くの論文を投稿してもらえよう努力していく所存です。最後に本『年報』が水準の高い雑誌として発展していくよう、院生各位の一層の奮起を期待し、さらに諸先生の御叱正と御指導をお願い申し上げます。

昭和六十二年三月三十一日発行  
 龍谷大学仏教学研究室年報第三号

編集者 龍谷大学仏教学研究室  
 印刷所 謹 文 堂 印 刷  
 発行所 龍谷大学仏教学研究室

京都市下京区七条大宮龍谷大学内  
 〇七五―三四三―三三三―(代)

## 大学院生研究発表題目（61年度）

〈日本印度学仏教学会第37回学術大会〉（於東京大学）

（6月14日）

- 加藤 利生 : 『瑜伽師地論』に見られる瑜伽行派の極微論の特色
- 三谷 真澄 : 『仏護註』に関する一考察
- 吉田 健一 : 『一乗仏性究竟論』と『権実論』との対照検討（2）
- 寺井 良宣 : 『権実論』の欠落部分に見られる『一乗仏性究竟論』の特色（3）
- 間中 潤 : 『一乗仏性究竟論』と『慧日論』との関連検討（4）
- 伊藤 正順 : 西谷義・深草義における韋提の得益の相違

（6月15日）

- 毛利 俊英 : 瑜伽師地論声聞地の四諦観
- 上田 愉美子 : 唯識学派における相統転変差別の概念（1）
- 藤田 祥道 : 瑜伽行派における有と無に対する一考察
- 若原 雄昭 : Se ra Rje btsun Chos kyi rgyal mtshan の内遍充論批判
- 白井 博之 : Chos kyi bzang po の学説綱要書
- 東光 爾英 : 敦煌出土の『起信論疏』の研究 -S.ch.4137について-
- 今井 浄園 : 不空門下潜真の「菩提心義」について

[学内における予備発表会 6月2、3、6日]

〈日本宗教学会 第45回学術大会〉（於京都大学）

（9月14日）

- 城福 雅伸 : 鎌倉初期の法相宗の学僧良算について
- 後藤 康夫 : 日本唯識思想の研究  
-五重唯識観の展開 遺虚存実識について（1）-

（9月15日）

- 池 要 : 静遍僧都における弥陀浄土思想の特色（1）

〈天台学会〉（於叡山学院講堂）

（10月24日）

- 吉田 健一 : 『一乗仏性究竟論』に関する研究の現状
- 寺井 良宣 : 『法華玄賛』の註釈書について

〈修士論文中間発表会〉

（11月20日）

- 中野 薫 : 瑜伽行学派の実践道としての唯識観
- 藤原 弘 : アポーハ論の研究  
-ダルマキールティを中心にして-

（11月21日）

- 筒井 保明 : 漢訳者翻訳態度の比較研究  
-チベット訳Suhrl- lekhaと三種の漢訳について-
- 藤本 晃 : 中国仏教に於ける仏身論の変遷

（11月25日）

- 濱野 君子 : 弘法大師の言語観  
-『声字実相義』を中心として-
- 土山 雅之 : 『一乗要決』の研究

## 院生会会員発表論文（61年度分）

D 1

- 池 要 ・ 静遍僧都の研究（龍谷大学大学院研究紀要 第8集 S62.3）  
・ 静遍僧都における弥陀浄土思想の特色（1）（宗教研究 60-4 S62.3）
- 上田愉美子 ・ 唯識学派における相統転変差別の概念（1）（印仏 35-2 S62.3）
- 後藤 康夫 ・ 日本唯識思想の研究  
—五重唯識説の展開 遺虚存実識について（1）—（宗教研究 60-4 S62.3）
- 吉田 健一 ・ 法華儀法の研究（龍谷大学大学院研究紀要 第8集 S62.3）  
・ 『一乗仏性究竟論』と『一乗仏性権実論』との対照検討（2）（印仏 35-2 S62.3）

D 2

- 青原 令知 ・ 作用と功能  
—衆賢説における実有構造—（仏教学研究4 2号 S61.5）
- 今井 浄園 ・ 不空門下潜真の『菩提真義』について（印仏 35-1 S61.12）  
・ 『菩提心論』の成立年代について（密教学 第23号 S62.3）
- 城福 雅伸 ・ 鎌倉初期の法相宗の学僧良算について（宗教研究60-4 S62.3）
- 白井 博之 ・ Chos kyi bzang po の学説綱要書（印仏 35-2 S62.3）
- 寺井 良宣 ・ 『一乗仏性究竟論』にみられる法宝の教学的特色  
—『一乗仏性権実論』の欠落部分を中心に—（印仏 35-2 S62.3）  
・ 『法華玄賛』における一乗解釈  
—「理一乗」論を中心として—（天台学報 28号 S61.10）
- 三谷 真澄 ・ 『仏護註』に関する一考察（印仏 35-2 S62.3）

D 3

- 加藤 利生 ・ 『瑜伽師地論』に見られる瑜伽行派の極微論の特色（印仏 35-2 S62.3）
- 間中 潤 ・ 貞慶における道理真理説の考察（仏教学研究4 2号 S61.5）  
・ 『一乗仏性究竟論』と『能顕中辺慧日論』との関連検討（4）（印仏 35-2 S62.3）
- 若原 雄昭 ・ ヴェーダの権威  
—ニャーヤ・ヴァイシェーシカの立場—（上）（仏教学研究第4 2号 S61.5）  
・ Se la Rje btsun Chos kyi rgyal mtshan の内遍充論批判（印仏 35-2 S62.3）

D 4

- 伊藤 正順 ・ 西谷義・深草義における韋提の得益の相違（印仏 35-2 S62.3）
- 金児 慧 ・ Genshin and the Ritual of Twenty-five Samadhi (The Pure Land No.3 近刊)
- 東光 爾英 ・ 敦煌出土の『起信論疏』の研究  
—S. ch. 4137について—（印仏 35-1 S61.12）
- 毛利 俊英 ・ 瑜伽行派に於ける四念住の展開（仏教学研究第4 2号 S61.5）  
・ 声聞地の修行道体系について（印仏 35-2 S62.3）  
・ 声聞地の修行道（龍谷大学大学院研究紀要 第8集 S62.3）

# 龍谷大学仏教学院学生会会則

## 第一章 総 則

第一条 本会は、龍谷大学仏教学院学生会と称する。

第二条 本会は、院生の自治を基本として、学問の自由を擁護し、龍谷大学仏教学大学院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

## 第二章 員

第四条 本会は、次の会員を以て構成する。

一、正会員 龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。

二、準会員 本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

## 第三章 総 会

第五条 総会は、本会の最高議決機関である。

第六条 総会は、本会の正会員をもって構成する。

第七条 総会は、正会員の三分の一以上の参加をもって開催することができる。

第八条 総会は、会長がこれを招集し、次の場合に開催される。

一、定期総会（毎年四月、九月）

二、会長が必要と認めた場合。

三、正会員の五分の一以上の連署による要求があった場合。

第九条 総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

## 第四章 執行部役員

第十条 本会は、次の役員をおく。

- 一、(1)会長一名 (2)副会長一名 (3)会計一名
- (4)渉外一名 (5)書記一名 (6)会計監査一名
- (7)文院協代表委員二名
- 二、ただし、(1)、(3)以外の兼任はこれをさまたげない。

第十一条 会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。又、役員は、総会において正会員より選出する。

第十二条 会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条 役員は任期は一年とし、重任は妨げない。

## 第五章 事 業

第十四条 本会は第二条の目的を達成する為、次の事業を行う。

一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助。

二、出版物の刊行。

三、会員親睦に関する事業。

第十五条 第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりに行う。

一、第十四条一の内、定例研究発表会を行うこととし、これを行うにあたっては、仏教学会と共催する。又、原則として正会員は、年一度研究発表をすることを前提とし、その発表の場として定例研究発表会をおこなうものとする。

二、研究発表に関しては、次のとおりに行う。

(イ) 修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表猶予期間とみなし、翌年度初頭における研究経過報告会にて発表を行うものとする。

(ロ) M2年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもって、これにかえることができる。

但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもってこれにかえることができる。

(ハ) 博士後期課程（以下Dと略す）は、何等かの研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

(ニ) 但し、D1年は、修士論文要約（大学院紀要）に掲載分をもってこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、仏教学会と共同し、研究雑誌の発刊をおこなうものとする。

四、第十五条一、三を行うにあたっては、実行委員会を置き、本会執行部役員より二名、仏教学会役員に任にある本会正会員より二名をもってこれを構成する。

(イ) 実行委員の内、実行委員長一名を互選し、委員を統括するものとする。

(ロ) 但し、実行委員会が必要と認めた場合、若干名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

## 第六章 会 計

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条 本会の経費は、還元金、会費、寄付金、およびその他の収入による。

正会員会費 年額 一、〇〇〇円

準会員会費 年額 一、〇〇〇円

本会の決算報告は、監査委員の監査をうけた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならない。

付 則

第十九条 本会則は、総会の決議により、変更することができる。

第二十条 本会則は、昭和六十一年四月一日より施行する。



**BULLETIN**  
**OF**  
**BUDDHIST STUDIES**  
**RYUKOKU UNIVERSITY**

**No. 3**

CONTENTS

1. Kobodaishi's view on Buddha-kāya  
Joen Imai.....( 2 )
2. On the Interpretation of Koyo bumo  
according to the Seizan tradition  
Shojun Itou.....( 6 )
3. Gandhāra  
Takashi Irisawa.....(15)
4. Synopses of Red mda' ba's Catuḥśatakātikā  
Mazumi Mitani.....(23)
5. On the Interpretation of the Saṃyukta-āgama 703  
in the Yogācāra school  
Yoshimichi Fujita.....(29)
6. On Paramārthaśūnyatāsūtra  
Norisato Aohara.....(40)

**March, 1987**